

令和6年度 キンメダイ太平洋系群資源評価会議 議事概要

日程：令和6年8月1日（木）13：30～17：00

会場：水産研究・教育機構 水産資源研究所 横浜庁舎講堂（ハイブリッド形式）

概要：

水産研究・教育機構（以下、水産機構）の資源評価担当者により、キンメダイ太平洋系群を対象として、令和6年度の資源評価報告書案が説明された。会議出席者による検討・議論の結果、資源評価報告書案は承認された。資源評価報告書は議事概要（本文書）とともに、資源評価会議名で水産庁に提出されるほか、一般に公開される。

令和6年度資源評価案の説明・検討

- ✓ 今年度の主な変更点は、昨年度の「今後検討すべき課題の整理」における「対象海域の漁業における情報収集体制の検討」に対応し、四国沖南方の海山域の漁獲量を加え、資源量推定を行った。さらに、沖底・高知県・鹿児島県の漁獲状況について、補足資料としてまとめた。
- ✓ 八丈島、底立てはえ縄の CPUE 標準化については引き続きの担当者会議などでやり取りすることとした。
- ✓ 資源評価で推定された 2023 年の親魚量（29.9 千トン）は、MSY を実現する親魚量（SBmsy、24.3 千トン）を上回った（1.23 倍）。また、2023 年の漁獲圧（0.14）は、MSY を実現する漁獲圧（Fmsy）を下回った（0.76 倍）。一方で、加入量（2 歳魚資源尾数）は減少傾向が続いており、2023 年の加入量は 690 万尾となった。
- ✓ 今後検討すべき課題については、これまでの「資源評価手法」、「CPUE 標準化」、「食害・遊漁・対象海域の漁業」に加えて「資源評価への取り込み」という項目を新たに設けて資源評価参画機関で議論し、補足資料 12 の記載内容について議論および検討を行った。
- ✓ 「資源評価への取り込み」について、現状の資源評価に組み込んでいない漁業についても、情報収集を進めており資源量推定の対象を拡大する可能性がある。これに伴い、今後必要に応じて、管理基準値等の更新の検討を行うといった内容を記載した。
- ✓ 以上の資源評価結果が、資源評価会議出席者により承認された。会議での指摘事項を踏まえて追記・修正を行い、確定・公表される。

外部有識者講評：

- ✓ 参画研究機関との円滑な連携協力が認められ、データ収集も進められている。「今後検討すべき課題」として整理されているように課題もあるが、現状において、丁寧に資源評価を行えている印象であった。今後の課題検討である沖合底びき網漁業の漁獲量や体長組成のデータなど、まだ資源評価に実装するためには、十分ではないと考えられる。これらについて、しっかり情報収集に努め、情報が十分に集まってきた段階で資源評価に組み込むことがよいと考えられる。

その他

- ✓ 系群の名称について、現状の「太平洋系群」の範囲が必ずしも明瞭ではないな

どのことから、水産機構より系群の名称の再検討を行うことを提案し、参画都県と意見交換をした。管理単位に対応した名称にするなど、具体的には、本資源評価会議以降の担当者会議で検討するというところで合意を得た。

以上